ローザンヌ・ユダヤ人伝道協議会 日本支部発行

一部 ¥ 200

2024.2.1発行

Networking Jewish Evangelism

イマニュエル・トレメリウスの生涯と信仰の証言

キリスト教とユダヤ人の関係

サムライ活動報告

ユダヤ人と異邦人を救う福音の力

台湾におけるゲストハウス伝道

ミッチ・グレイザー

ローレンス・ヒルシュ

内山 アイザック

ジョージ・チャン

P2-3

P4-5

再臨の兆候

〒541-0041 大阪市中央区北浜2-3-10 VIP関西センター3F TEL. 072-867-6721 FAX. 072-867-6721 Eメール Icjejapan@hotmail.com ホームページ LCJEJAPAN.com

たそうです。

郵便振替 LCJE日本支部・00950-4-25633

巻頭言

思いがけない新年を迎えて

LCJE 日本支部コーディネーター C.クリンゲンスミス

で新年を迎えた初めての年は 1942 年 9 月 11 日(金)日 没開始、最後は 1944 年 9 月 17 日(日)日没をもってだっ

そして、アウシュビッツでは、いかなる宗教的な儀式も活動も断じて禁じられました。いかに絶望のどん底で信仰の表現は一切禁じられた中、その日没の瞬間を見ることはユダヤ人たちにはどのような気持ちだったのだろうかと私はますます沈んでいく夕陽を見ながら思いました。「わたしの時はあなたの御手にあります。わたしをわたしの敵の手と、わたしを責め立てる者から救い出してください。」(詩編31:15 口語訳)ところが、めでたい時であるはずのこの新年の日没を見たアウシュビッツのユダヤ人たちから時が奪い取られて、おそらく一人も生き残れませんでした。神様はその敵の手と責め立てる者の手から救い出してくださいませんでした。福音を聞かずにこの世を去った人々はいかに多かったかと思いました。

日没が終わって私はグループの皆さんと出口で会いクラコフに帰りました。一方囚人たちにとって出口はありませんでした。

去年そのようにして私にとってユダヤ人の祭りの期間が始まりましたが、その期間の最後の日は10月7日、ハマスによるホロコースト以来最大のユダヤ人虐殺をもって終わりました。仮庵祭の最後の日、しかもシャバトでした。

さて、人類の歴史にわたってホロコーストのような謎を 今は解くことができなくても、私たち今、生きているキリスト者にも言えるのではないでしょうか。「わたしの時はあなたの御手にあります。」まして、そういった「時」として私たちにはさらなる恵みの年が与えられています。ただ今、世界のユダヤ人たちには危機が訪れています。昔と同じようにユダヤ人の絶滅を目指しているものがますます現れてきています。せっかく時が与えられている私たちはこの時を生かしてイスラエル、民も土地ものために心を砕き祈りましょう。福音を聞く時が与えられなかった大勢の人を思いながら、現在の世界のユダヤ人たちのために福音宣教を祈ったり参加したり捧げたりしようではありませんか。

LCJEニュースの愛読者の皆様、新年2024年おめでとうございます。

去年一年間もイスラエルとユダヤ人のために共に祈ってくださり、捧げてくださったことを心から感謝いたします。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



さて、恵みの年 2024 年を

思い巡らすために、ここで違う新年、去年9月にあったユダヤ歴5784年のロシャシャナの私の体験をお話しします。夢にも思いませんでしたが、去年、国際会議のために2回ほどポーランドを訪問しました。8月にはLCJE国際大会がありました。さらに9月の出張はルーテル世界連盟の会議でした。どちらの会議にもアウシュビッツ見学の日がありました。

9月の際は合わせて600人以上の参加者でしたので、グループに分けなければなりませんでした。たまたま私の班は長い一日の一番最後でした。午後遅くようやくアウシュビッツ・ビルケナウに着きました。ビルケナウはユダヤ人絶滅のためのガス室と焼却炉があった所です。ホロコーストでは約600万人のユダヤ人が死んだといわれていますが、面積がそれほど広くないビルケナウだけで110万人のユダヤ人の命が奪い取られました。歩きながらますます日没が近づいてきている赤い夕陽を見ながら、私はハッと思い出しました。「今日は9月15日、この日没をもってロシャシャナ、ユダヤ人の新年が始まる。私はなんとアウシュビッツに立っている」と。

アウシュビッツの最初は主にポーランド人の政治犯罪者のためでした。主にカトリック教徒や共産主義者、そして1941年夏からソ連赤軍の捕虜たちも加えられました。一方、ユダヤ人は本格的に1942年春から連れて来られて、その年の夏から大多数になりました。よって、ロシャシャナに関しては、後で調べてみると、ユダヤ人たちがアウシュビッツ

学識:イマニュエル・トレメリウスの生涯と信仰の証言

(前) LCJE 国際コーディネーター ジム・メルニック 翻訳: 駒井 洋子



Immanuel Tremellius and Franciscus Junius, "The First Book of Mosche [Moses]," in Testamenti Veteris Biblia Sacra, first published at Frankfurt am Main, 1575-1579.

概要

イマニュエル(エマヌエル)・トレメリウスはイエスを信じるユダヤ人信者であり、16世紀に聖書に関する深い学識と宗教改革に並外れた貢献をなした人であった。彼は1510年ごろイタリアのルネサンス様式の町フェラーラに生まれ、宗教改革時代の最も優れた学者の一人であったが、現在の福音派主義者にはその名はほとんど知られていない。1549~1553年までケンブリッジ大学において、ヘブライ語欽定講座担任教授であった。その後、ドイツに渡るが、カルヴァン派信仰のため一時期投獄されていた。釈放後、彼は1561~1577年までハイデルベルク大学の旧約聖書の教授であった。

トレメリウスの初期の著作とその影響

トレメリウスの主な著作は、1569年パリで出版された Grammatica chaldaea et syra というカルデア語 およびシリア語のラテン語文法書である。この書物は、彼のシリア語新約聖書のラテン語訳とともに文法が一助となるようにと、ひとまとめになっていた。トレメリウスは、シリア語のラテン語訳とともに、シリア語新約聖書をヘブル語文字に再編していた。彼は、シリア語のテキストをヘブル文字に変えればユダヤ人をキリスト信仰に導く手助けとなるであろうと信じていた。

トレメリウスのシリア語新約聖書が初めて出版されたとき、信条的対立にある双方の学者たちによって熱狂的に迎えられた。一方はウルガタラテン語訳聖書の代わりに、また一方はギリシアロ伝の単なる効果的補足としてである。その深い学術的影響はほぼ4分の3世紀に及んだ。

トレメリウスは 1575 年の数年後に、フランシスカス・ジュニアスという学者と共にヘブル語聖書のラテン語訳を出版した。それは非常に評判がよく、1715 年までにヨーロッパで 34 版まで出版された。彼の自伝には、「このラテン語訳旧約聖書は、宗教改革時代に出現した最も印象的で重要で成功した学術的作品の一つである」と述べられている。

トレメリウス訳聖書は、17 世紀にはハーバード大学学生に用いられ、一方、初期アメリカ植民地のウィリウム・ブレースターやウィリアム・ブラッドフォードなどの

書籍棚にも見られた。それは、「ウルガ聖書のプロテスタント用代替書」としてみなされていた。

Jewish Virtual Library のトレメリウス自伝を開くと、「彼のラテン語訳聖書は 17 世紀の英国におけるへブル語研究に深い影響を与えた」と記されている。

興味深いことに、Testamenti Veteris Biblia Sacra というこのラテン語版は、聖書を「ユダヤ的感覚」で書かれた版としてもっとも初期の版の一つであろう。メシアニック・ジューの著作者ディヴィッド・H・スターンの The Complete Jewish Bible よりはるか昔の作品である。例えば、トレメリウスは聖書に、モーゼス (Moses)をモシェ (Mosche) とヘブル的名前を用いている。ざっとラテン語訳聖書を見ても、創世記 24章のレヴェッカ (Rebeckah) をリブカ (Ribka)、創世記 28章1節のアイザック (Isaac) をイツハク (Jitzchak) としている。

青年期時代

トレメリウスの幼いころの環境あるいは教育事情についてはよく知られていない。青年時代にアブラハム・ベン・モルデカイ・ファリッソルのもとで学んだと推量される。当時、ファリッソルはイタリアのフェレーラのユダヤ人共同体の教師に任命されていた。彼は、タルムードやカバラ文学はもとより「旧約・新約聖書にも非常に精通している」と言われていた。彼は、1528年ごろ死去し、その時トレメリウスは18歳ぐらいだったと思われる。

次にイマニュエル・トレメリウスは古典を学ぶためパドア大学に行ったようであるが、実際のところ確かに入学をしたという証拠は見当たらない。しかし、彼の自伝記作家によると、当時のパドア大学は、「ユダヤ人学生に高度な教育を提供する最も協力的な大学として知られていた」と指摘している。

信仰を持つ

トレメリウスがキリスト信仰を持つようになった経過は非常に興味深い。彼は、明らかにローマ教皇、ジョン・カルヴァンそしてカンタベリー大司教トマス・クランマーと親交があった。イマニュエルはローマに行き、後に1534年教皇パウロ3世となったアレッサンドロ・ファルネーゼ枢機卿の家で初めてイエスをメシアと受け入れたのかもしれない。また別の記述でイマニュエルとレジナルド・ポールとの間柄も伝えている。1572年出版されたDe Antiquitate Britannicae には「非常に博学なイマニュエル・トレメリウスはレジナルド・ポールの福音主義者の集まりや、アントニオ・フラミニオの仲間たちの集まりによく参加していた」と書かれている。彼は、「ポールの家でポールとフラミニオから洗礼を授けられた」と伝えられている。

1530年代初期と1540年代初期にイタリアのカトリックのある集団で改革運動の動きがあった。この頃はカトリックとプロテスタントを分ける境界はまだ漠然としたものだった。新しく信仰を持ったトレメリウスは

この動きの只中で、主を信じる信仰を明らかに成長させていった。それは、信仰による義認という基本教理をある部分奉ずるものであった。しかし、教皇パウロ3世となったファルネーゼ(トレメリウスの最初の信仰における師であったと思われる)が1542年7月21日ローマの異端審問を復権するという教皇勅令を発したことによりその境界は厳しいものとなった。イタリアの新興福音主義者は衝撃を受け、信仰者はどちらの側に付くか選択をせまられた。カトリックの傘下に入るか、あるいは、多くは、イタリアを去るか。後者のトレメリウスはストラスブールに逃れた。

ケンブリッジ大学

プロテスタント改革者は、英国 1540 年代ヘンリー6世の統治時代に非常に歓迎された。トレメリウスは少なくとも 1549 年初期には英国に到着し、すぐに大きな支持を受け、ついにはケンブリッジ大学のヘブル語担当の欽定教授の名が与えられた。この地位は、当時「英国の最も顕著な教育的な地位」と言われている。

ジョン・カルヴァン

イマニュエル・トレメリウスとジョン・カルヴァンとの個人的つながりもまた非常に興味深い。二人は様々な機会に連絡を取り、1554年6月には、神学者カルヴァンに自分の妻が当時ジュネーブに来ているので気を付けてほしいと手紙を書いている。その手紙の中で、カルヴァンがトレメリウスのゲストであったことを書いている。

トレメリウスは自分の出版物を用いたユダヤ人宣 教のパイオニアであった。





nmanuel Tremellius' Chaldean and Syriac Grams

リシア語及びヘブ ル語訳を出版した。 彼は積極的にこ の作品をカルヴァ ンに薦めている。 1551年3月3日 のカルヴァン宛の 手紙には、彼はユ

1551年、トレメ

リウスは『ジュネー

ブ信仰問答』のギ

ダヤ人に同感するだけではなく、ユダヤ人同胞が彼の作品から利益を得ることができるようにと希望している。それは、明らかにユダヤ人が救われることを指している。「もし神が許されるなら」「この聖なる事業が望ましい結果となるように」と書いている。このことを念頭に置き、数年後の1554年にイマニュエルはこのヘブル語の特別独立版を出版している。そのタイトルは『神の選びの教理問答』(Sefer Hinukh behirei Yah である。ケネス・オースティンはこの作品は非常に意義深いと評価し、次のように述べている。「明らかにこの独立版は、広い観点からみていわゆるユダヤ人宣教の範疇に入るものと考えられる必要がある」と。

家庭生活

トレメリウスのカルヴァンに宛てた手紙についてはすで

に述べた。彼の妻がジュネーブに滞在中、注意を払って ほしいとカルヴァンに頼んだ手紙である。また、トレメ リウスが義理の息子アントニー・シェヴァリラーと特別 に親密なつながりを築いていたことも認識している。ア ントニーは学問を深く極めて偉大なヘブル語学者になっ た人物である。トレメリウスは、彼について「私自身の 命のように彼は大切人で、何年も親密な絆を保ち、話し 合いをしてきた。神に感謝、私が死ぬ前に彼のような席 を譲る人を与えてくれた神の御名を賛美する。」と述べて いる。

今日のイマニュエル・トレメリウスについてのユダヤ人評価;タルムードの利用

アンソニー・オルドコーンは、ユダヤ人向け機関誌 Shofar に、トレメリウスは「忠実で信仰に堅くたってい る改宗者のようで、霊的に燃え、熱心で敬虔なユダヤ人 …以前と同様に献身・熱意を抱いて新しい信仰告白を奉 じているようだ上記している。トレメリウスは回心後「過 去の自分から孤立して過去の兄弟たちを攻撃するという より、むしろユダヤ文化を取り入れそれを自らの専門職 としてのキャリアを構築している。」彼の自伝作家によれ ば「イマニュエルのユダヤ人文化におけるヘブル語の経 験と実践の豊かさは…この時代のヨーロッパにおける同 時代人の中でひときわ際立っている…」という。彼は自 分のユダヤ人としての遺産と決別するどころか、ユダヤ 人の言語・文化・知恵など彼の著作・信仰の告白に取り 入れるよう人生を捧げた。彼は個人的にタルムードの一 部を所有していた。それは、スイス、バーゼル大学図 書館に所蔵されているという。トレメリウスは、正しく 用いるならタルムードはキリスト教にとって大変有効だ と信じていた。彼の数か国語の新約聖書を書きあげる とき、タルムードから資料を引き利用している。」

オースティンのトレメリウス伝記

ケネス・オースティンの著作『ユダヤ教からカルヴァン主義へ ー イマニュエル・トレメリウスの生涯と著作』は英語で書かれた最初のトレメリウスの伝記で、2007年St. Andrews Studies in Reformation Historyの一環として Ashgate Publishing から出版された。これは、当初オースティンがスコットランドのセント・アンドリューズ大学の博士号学位論文をもとに書かれたものである。

この本のハードカバー版は約 160 ドルときわめて高価である。アマゾンキンドル版はおよそ 48 ドルと高いが、まだ手頃な値段といえる。アマゾンキンドルでは、無料で e-book 版のサンプル・セクションを提供している。電子版は、2016 年にテイラー&フランシスグループ傘下のラウトレッジから出版された。

オースティンは以下のように述べている。「真のヘブル語テキストの確立とその正確な解釈はヘブル語の深遠な知識と相補的ユダヤ語テキストの気づきによってのみ達することが可能であった。」これらはプロテスタント教会が自らを不動のものとし、カトリック教会との相違比較の過程に必然的なものであった。

イマニュエル・トレメリウスはその過程において非常に重要な役割を果たした。

チョーズン・ピープル・ミニストリーズ総主事

ミッチ・グレイザー

文責:早川 衛



2023年11月3日(金)、 チョーズン・ピープル・ミニス トリーズ(以下、「CPM」とす る)特別集会において、同団 体の総主事であるミッチ・グ レイザー師(以下、「グレイザー 師 | とする)は、「再臨の兆候 | について語られた。グレイザー 師が語られた内容の要旨と筆 者の感想を以下のとおり記さ せていただく。

再臨とはイエス・キリストが、再び、この地に来られること である。グレイザー師は、再臨の前に二つの大きなしるしが ある、と述べられた。

第一のしるしは、ユダヤ人がイエスを救い主として受け入 れることである。そして、受け入れるということは、救われる ことを意味する。

グレイザー師は、イエスを救い主として受け入れるユダヤ 人が、増加傾向にあることを次のように説明された。

19世紀に受洗したユダヤ人の数は、福音派教会内で 72,740人、カトリック教会内で57,300人、ギリシャ正教 会内で74.500人である。3つの数の合計は、204.540人 となる。

次に20世紀の最初の三分の一の期間にイエスを救い主と 信じたユダヤ人の数は、ハンガリーで97.000人、ウィーン で 17,000 人、ポーランドで 35,000 人、ロシアで 60,000 人、アメリカ合衆国で20.000人である。これらの数の合計は、 229,000 人となる。ただ、この数字には、カトリック教会お よび正教会内で受洗したユダヤ人は、含まれていない可能性 がある。

そして、今日、アメリカ合衆国における全福音派教会メン バーの 2% (約87万人)は、ユダヤ人の父母もしくは祖父 母を持つ者たちである。

グレイザー師は、このような統計資料を用い、イエスを救 い主として受け入れるユダヤ人が増加していることを示され た。そして、それが、イエスの再臨の兆候の一つであること を強調された。

なお、グレイザー師が言われた「働きは報われる」は、上 記ユダヤ人の受洗や救いのために労した多くの働き人たちと 今後の働き人を意識したことばである、と感じた。

「再臨の兆候」の二つ目は、再建されたイスラエル国家で ある。グレイザー師は、「今あるイスラエルは、預言の成就 なのか?」と問いかけられた。そして、エゼキエル書 36 章 のみことばを引用し、今日イスラエル国家が存在することは、 神が忠実であることを表わし、神のみことばが、真剣かつ文 字どおりにとらえられるべきものであることを強調された。 また、イスラエルの地がユダヤ人に与えられたのは、彼らが 何か良いことをしたからではなく、神の恵みによるものであ り、誰も彼らからその土地を取り上げることはできない、と 繰り返し述べられた。グレイザー師は、神の恵みを説明する ため、エレミヤ書 31 章 35 ~ 37 節を引用された。

次にグレイザー師は、「私たちは、再臨にどれだけ近づい ているのか?」と問いかけられた。そして、今日のユダヤ人の 不信仰は、彼らが不信仰のまま神の約束の地に帰ってくると いう預言の成就であり、イスラエルの再建の第一ステップで ある、と述べられた。そして、それに続き、主がユダヤ人に 聖霊を注ぎ、彼らが悔い改めることが、イスラエル再建の第 二ステップであり、その後、イエスの再臨が実現する、とし た。グレイザー師は、これらのことをエゼキエル36章、そ してゼカリヤ書9章ならびに12章を引用し、解き明かされた。

さて、今回の CPM 特別集会は、イスラエルが大変な困難 に直面している最中に行われた。グレイザー師が同集会中に 言われた「私の体は、ここにあるが、私の心は、イスラエル にある」の背景には、そのような状況があったのである。

筆者は、同集会の中で、(15節)シオンで角笛を吹き鳴らせ。 断食を布告し、きよめの集会を召集せよ。(16 節)民を集め、 会衆を聖別せよ。老人たちを呼び集め、幼子と乳飲み子た ちを集めよ。花婿を寝室から、花嫁を自分の部屋から呼び 出せ。(17節)神殿の玄関と祭壇の間で、主に仕える祭司た ちは泣いてこう言え。「主よ、あなたの民にあわれみをかけ てください。あなたのゆずりの地を、国々のそしりの的、物 笑いの種としないでください。諸国の民の間で、『彼らの神 はどこにいるのか』と言わせておいてよいのでしょうか。」(ヨ エル書 2 章 15~17節) を引用し、祈りを導かせていただ いた。それは、17節のみことばが、あまりにもイスラエルを 取り巻く今日の状況と一致するからだ。しかし、17節に記さ れた事柄が今日、実際に起こっているということは、グレイ ザー師が言う 「再臨の兆候」の一つに通ずるものであると思 料する。なぜなら、同章 28 節には、「その後、わたしはす べての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言 し、老人は夢を見、青年は幻を見る。」と記されているから だ。この節の冒頭には、「その後」と書かれている。つまり、 聖霊がユダヤ人の上に注がれるためには、17節の実現が必 須なのである。したがって、私たちも恵みによって主に仕え る祭司であるため、神殿の玄関と祭壇の間で、泣いて、主に 執り成さなければならない。

キリスト教とユダヤ人の関係

セレブレイト・メサイア代表 ローレンス・ヒルシュ

私はオーストラリアで、チョーズン・ピープル・ミニストリー ズ(CPM)の傘下にある「セレブレイト・メサイア」という :

ユダヤ人伝道団体を運営しています。私たちはオーストラリア、 ニュージーランド、イスラエルのほか、日本に近い極東ロシ アやサハリンのユダヤ人にも伝道を行っています。

救いはユダヤ人から来る

さて、皆さんにはユダヤ人の友人がいるでしょうか。また、 先週にユダヤ人と話をしたことがあるでしょうか。イエス様は ユダヤ人ですから、皆さん全員の答えは「はい」であるはずで す。イエス様は天に上げられた時に、ユダヤ人でなくなったわ けではありません。使徒の働き 1:11 で御使いは、キリストが天 に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、ま たおいでになりますと言いました。つまりイエス様は昔も今も、 これからも、ユダヤ人なのですが、多くのクリスチャンはそれ を忘れています。

ですから、私たちはユダヤ人に福音を伝えると同時に、異邦人クリスチャンにも福音のユダヤ性を伝えています。ユダヤ人のことがわかると、イエス様のことが、もっとよくわかります。文化を知れば親しみがわきます。イエス様の生活や風習、祭のことをもっと知れば、もっとイエス様が身近になるのです。

イエス様はサマリヤの女性との会話の中で「**救いはユダヤ 人から出る」(ヨハネ 4:22)** と言われました。これは、昔も今も、政治的に適切な発言ではありません。しかし、それが神のご計画なのです。

救いがユダヤ人から来るのは、ユダヤ人が優れているからではありません。実際、私たちは欠点だらけです。イスラエルの地は「聖地」と言われますが全く「聖」なる場所ではありません。それでも、神様がユダヤ人とイスラエルの地を用いて、世界に救いをもたらすとお決めになったのです。

ローマ書のパウロの教え

サウロが回心して神様からパウロという名前を与えられたと誤解している人が多いようですが、サウロとパウロは彼がもともと持っていた二つの名前でした。それは現代のユダヤ人と同じです。たとえばミッチ・グレイザー博士の「ミッチ」は英語式の名前ですが、博士は「メナヘム」というヘブライ語の名前も持っておられます。サウロが回心して、神様からパウロという名前をいただき、ユダヤ人をやめたわけではないのです。

そのパウロは、ローマ書 1:2 で「この福音は、神がその預言者たちを通して、聖書において前から約束されたもの」だと指摘します。福音は、突然登場したものではなく、旧約聖書の中で、すでにユダヤ人に予告されていたものでした。さらに、私たちの信仰の基本である新約聖書もまた、ユダヤ人によって書かれました。

それにもかかわらず、キリスト教の初代教会の教父たちからはじまって、近代に至るまで「イエスを信じたユダヤ人に

ユダヤ人をやめさせる」 という間違ったたました。 行われてユダヤースでも は、ホレムギースでも はユダヤースでも はユダヤースでからせ」 に良い知らせ」いのに「悪いなのに「悪いなのに「悪いたら きなのでも きなして彼らに伝えられました。



福音がユダヤ人のためのものであることを、パウロはローマ書 9:4~5で指摘しています。①子とされること、②栄光、③契約、④律法を与えられること、⑤礼拝、⑥約束、⑦父祖、⑧人としてのキリスト、という8つの霊的特典がユダヤ人のものだというのです。これら抜きに信仰はありえません。さらに、ユダヤ人と異邦人を救う福音の力は、キリストの血ですが、その血が「ユダヤ人の血」であることを、皆さんは考えたことがあるでしょうか。

ユダヤ人が倒れた理由

それにもかかわらず、ユダヤ人の多くはメシアを拒否しました。そこで 11 章の冒頭でパウロは「神はご自分の民を退けてしまわれたのですか」と問いかけます。なぜ神は、多くの霊的特典を持つ民をかたくなにされたのでしょうか。それは私たちユダヤ人の責任でもあるのですが、そこに深いご計画があることを、パウロは 11:11 で明らかにします。彼らの失敗は「救いが異邦人に」及ぶためだったのです。そして、異邦人クリスチャンは「イスラエルにねたみを起こさせる」という使命を与えられました。

これを読む時、私は自分の家族を思わざるを得ません。 祖母は私をとても可愛がり、神様について教えてくれました。 でも、彼女は福音を聞く機会が無かったのです。祖父母の 両親も、そのまた両親も、そうでした。でもそれは異邦人に 福音が及ぶためでした。もし最初にユダヤ人が信じていれば、 皆さんはここにいなかったのです。

皆さんは、そのような歴史の上に立っておられるのです。ですから、異邦人クリスチャンには、ユダヤ人にねたみを起こさせる義務があります。それはイスラエルを愛する一部のクリスチャンだけの義務ではなく、全てのクリスチャンの義務です。

そして、最後に「イスラエルはみな救われる」(11:26) のです。それは、死人の復活(11:15) にも比べられる大きな祝福を世界にもたらすのです。その日のために、一緒に祈り働いて行きましょう。

ベイト・サムライ活動報告

CPM日本支部 議長

内山 アイザック

チョーズン・ピープル・ミニストリーズ(CPM)日本支部は、日本に来るイスラエル人旅行者のためのゲストハウス「ベイト・サムライ」を運営しています。昨年秋にコロナ封鎖が解除されたあと、現在までに約200人以上のイスラエル人を宿泊させました。

兵役を終えたイスラエルの若者の多くは、世界を旅します。 それは「イスラエルが諸国の光となる」という預言があるか らではないかと私は考えています。

食事の中で福音を伝える

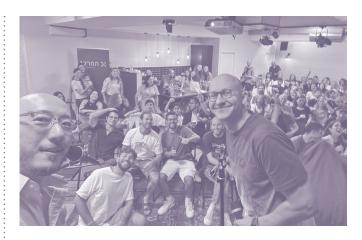
ベイト・サムライでは、聖書に定められたイスラエルの伝統的な祭りを祝ったり、文化的な催しを行ったりしていますが、特に毎週の金曜夜のシャバット・ディナーを大切にしています。日本で暮らすユダヤ人や、ベイト・サムライの宿泊客も参加して、ユダヤ的で家庭的な雰囲気でゆったりとした時間を共に過ごしながら、福音の話をします。かつて異邦人クリスチャンに迫害されたことから来る、キリスト教へのアレルギーを持っている人もいますが、現在の世俗的なユダヤ人の多くは、福音に抵抗を感じないようです。

今年6月に私たちがイスラエルを訪問した時には、テルアビブ近郊にあるCPMの施設にベイト・サムライの過去の宿泊者を招き「同窓会」をしました。すると、全部で80人くらいが集まりました。友人を連れて来た宿泊者もいました。メシアニックジューの認知度は年々増えていて、彼らは心を開いています。日本で宣教の種を蒔き、現地のコングリケーションによってそれが成長していくのです。

10月の戦争に応答して

戦争勃発で、ベイト・サムライにいた若いイスラエル人は大きな衝撃を受けていたので、私たちは様々なサポートを行いました。日本人クリスチャン、イスラエル人、イスラエル大使館の人々が集まって東京でのデモに参加しました。

また、ちょうど10月中旬にイスラエルを訪問する予定を 組んでいたため、予定通りに現地に行き、被災者や兵士に



支援物資を届ける活動も行いました。日本のクリスチャンと メシアニック・ビリーバーからの支援だと告げると、彼らは 笑顔を見せてくれました。イスラエルの人々は様々な危機に 直面しています。ある兵士は不安を打ち明けてくれたので、 イエシュアの癒しや愛を伝え、福音を語る機会が与えられま した。

ハマスの侵入攻撃により多くの死傷者や人質が発生していますが、ガザ周辺から避難を余儀なくされた多くの人々のことも忘れてなりません。彼らに対しても支援物資を渡すことができました。皆様の支援でこのような活動ができたことに感謝しています。

ユダヤ人と異邦人を救う福音の力

CPM日本支部 代表役員 デイビッド・トゥルーベック



私はメシアニック・ジューの共同体で育ち、17歳の時にヨハネの福音書 3:16を通じてイェシュアを救い主して受け入れました。そして受け入れました。そして宣称の時にユダヤ人宣教団体チョーズン・ピープル・ミニストリーズ(CPM)のスタッフとなりました。今日は、ローマ書から福音の力について語りたいと思います。

福音は神からのメッセージ

パウロの多くの書簡は、それぞれ特定の教会の諸問題を解決するために書かれました。しかしローマ書には、すべての信徒が信じるべき原則が系統的に書かれています。

彼は冒頭の挨拶 1:1 で「神の福音のために選び別たれ、 召されて使徒となった」と書いています。この「神の福音」 という言葉は重要です。福音は人間が考案した宗教思想で はなく、天地を創造された神ご自身から出たものなのです。

そして 1:16 でパウロは「わたしは福音を恥としない」と言います。これは特にユダヤ人にとっては難しいことです。日本のクリスチャンが福音を語るなら、ユダヤ人たちはあまり抵抗なしに聞くでしょう。しかし、私のようなユダヤ人が「イエス様を信じている」と言えば、多くのユダヤ人は「お前は裏

切者だ」と言うのです。だから消極的になりがちですが、それでも私たちは語らなければなりません。

宣教は神の力による

そしてパウロは福音が「神の力」であると言います。私たちはそれぞれ才能を与えられていますが、その力で福音を語るべきではありません。福音のメッセージそのものに神の力があるのです。

私の祖母はホロコースト生存者で、宗教は信じない人でした。ところが、好奇心から教会に来ているうちに、神が彼女の心に触れて下さり信じたのです。あきらめないでいれば、時が来ると神様が働いて下さいます。

そしてパウロは「ユダヤ人をはじめ、ギリシャ人にも」という宣教の順序を語ります。神はユダヤ人を用いて福音を全人類に示されました。パウロはそのユダヤ人が福音を知らないことを嘆きつつ、この言葉を述べていると思います。しかし、今や皆様がそのユダヤ人たちに福音を伝えることができるのです。それは容易なことではありませんが、とても光栄なことではないでしょうか。

神のアブラハムへの約束(創世記12:3)は、ユダヤ人を祝福する者が祝福されるという約束です。だから、皆様がユダヤ人のために祈る時、またユダヤ人伝道の働きに関わる時、特別な祝福を受け取ることが出来ます。

この神の約束を信じ、是非イスラエルのために祈り続けて下さい。



2023年11月28日オンライン祈り会レポート

台湾におけるゲストハウス伝道

LCJE 中国語圏コーディネイター ジョージ・チャン



先是猶太人

新しく中国語圏のコーディネイターに選任されたチャン師に、台湾におけるゲストハウス伝道についてレポートしていただきました。この活動はチョーズン・ピープル・ミニストリーズ(CPM)の台湾支部によって行われています。台湾を訪れるイスラエル人旅行者は、日本よりもはるかに少ないのですが、普通の信徒たちが協力して大きな成果を上げているという報告に、大きな励ましを受けました。

CPMの活動はローマ 1:16 の「福音は、まずユダヤ人に」と、同 10:1 の「私の心の願いは、彼ら(ユダヤ人)が救われること」と語るパウロの熱い思いが基礎になっています。CPMは、世界の20か国で活動中ですが、東アジアの香港、台湾、韓国は最近になって活動が拡大しているホットな地域なのです。

祈りから始まった活動

ユダヤ人があまり住んでいない東アジアで、ユダヤ人のために何ができるかを考えていた時、兵役を終えたイスラエル人の若者が、毎年3~4万人もアジアや南米を長期にわたって旅していることを知りました。台湾政府の統計によれば、2019年から現在まで累計で1万人以上のイスラエル人が台湾を訪れています。

そこで、私たちはコロサイ4:2-3 にもとづき「宣教の門を開いてください」と祈りました。ユダヤ人であるパウロは、異邦人伝道の扉を開いて下さるように祈りましたが、私たち異邦人は同じ言葉でユダヤ人伝道のために祈るべきです。

祈りはじめると、すぐにゲストハウスを始めることを示され、2019年にベイト・シムハ(喜楽之家)を始めたのです。

ネットワークで成果



その後、台湾各地にビジョンを同じくする喜楽の家が次々に設立され、コロナが始まるまでに100人以上のイスラエル人を歓迎することができました。その中には、世俗派から正統派まで、若い人から家族連れまで本当に多様な人々がいました。

そして、そのうち10人は一緒に教会の礼拝にも参加して下さり、5人は新約聖書を学び始めました。

ゲストたちの多くは「あなたがたはなぜ、私たちを愛して下さるのですか」と質問します。すると私たちは「イスラエルの神が先に私たちを愛して下さったからです」、あるいは「私たちの最高の友(イェシュア)が、ユダヤ人だからです」などと説明します。すると、そこから会話が広がるのです。

そして私たちは、ヘブライ語の新約聖書と福音について説

明したカードを渡します。

食事を共にして交流

ユダヤ人たちは金曜夜にシャバット(安息日)を迎える食事をする風習がありますが、それは、とても良い伝道の機会になります。食事をしながらイェシュアの愛を伝えるのは、とてもやりやすいのです。

また、台湾の南端の町では、クリスチャンが経営するレストランがあり、イスラエル人旅行者には無料で食事を提供しています。その食堂は無料でガイドを提供している人々と共に活動をしています。

無料で観光案内を行うチームは、台湾の他の場所にもあり、ゲストハウスを運営する人々と連携して活動しています。

福音にふれる旅行者たち

台湾を旅行中に負傷した女性もいました。病院まで付き添うなどしてお世話をしたところ、真剣に福音の話を聞いて下さいました。そして、帰国後に「新約聖書を読み始めた」との、うれしいメッセージも届きました。

ある超正統派の女性は、喜楽之家の活動がとても好評だ との話を友人たちから聞き、わざわざ私たちに会うために台 湾まで来てくれました。私たちがなぜイスラエル人を愛する のか、それが知りたかったようです。欧米では、クリスチャ ンがユダヤ人を愛することは、めったに無いのです。

また、ある国防軍の士官は、5つの喜楽之家に連続宿泊して、福音のメッセージを聞き、最後に私たちの家に泊まってイエス様を受け入れる祈りをしました。

教会や神学校での広報活動

現在、台湾全土に19の喜楽之家があり、今年末にはあと6箇所増えて25か所になります。私たちは、活動を始めて以来、一軒一軒、教会を回ってユダヤ人伝道の重要性を語り、誰でもユダヤ人に福音が伝えられるのだと、説明しています。

神学校も回りました。一部の神学校では「ユダヤ人伝道セミナー」を行い、神学的な裏付けについても語り、修了証書も発行しました。台湾の教会の中には、イスラエルの重要性を理解しない教会も多いのですが、地道な活動で、少しずつ理解が広がっています。

東アジアのネットワーク

CPM日本支部が設立されたと聞き、とても喜んでいます。 日本と台湾は距離的にも近く、どちらも訪れるイスラエル人が多いのです。今後、日本と台湾はユダヤ人伝道において協力して行けると思います。

ユダヤ人伝道は、再臨のために必要な働きであり、全ての教会の優先課題であるべきです。「ユダヤ人伝道はユダヤ人に任せておけばいい」というのは、多くの人々が持つ誤解ですが、異邦人がユダヤ人にねたみを起こさせる使命(ローマ11:11)があることを忘れてはなりません。実際、CPMの調査によれば、90%のユダヤ人ビリーバーは、異邦人クリスチャンの伝道によって信仰を持ちました。

主が再臨される日まで、共に働いて行きましょう。



LCJEは、ユダヤ人伝道団体の情報交換ネットワークです。加盟しているユダヤ人伝道団体それぞれの立場・活動を尊重して、機関紙などに情報を掲載しています。しかし特定の立場・教理などを、LCJEとして支持するものではありません。読者におかれましては、個々の見識によって提供される情報を判断してくださいますよう、お願いいたします。

2024年度祈り会予定

場所	1月	2月	3月	4月	会場
大阪(6:30より)	11⊟	8⊟	14⊟	11⊟	北浜スクエア(VIP関西センター8F)
東京(1:30より)	13⊟	10⊟	9⊟	13⊟	御茶ノ水クリスチャンセンター

【大阪祈り会にご参加される方へ】第二木曜日午後6時半開始です。 【東京祈り会にご参加される方へ】ご注意ください▶通常祈り会の会場は、811号室ですが、変更される場合があります。 階下の掲示板をご覧になってご参加ください。

LCJE オンライン集会

大阪・東京の祈り会に加えて、オンラインでの祈祷会を月1回(第四火曜日夕刻)開催しています。パソコン、タブレット、スマホのいずれでも参加いただけます。参加希望の方は、前日までに naoji@zion-jpn.or.jp (石井田) までメールでお申込み下さい。



ああ、シオンの民、エルサレムに住む者。 もうあなたは泣くことはない。 あなたの叫び声に応じて、 主は必ずあなたに恵み、それを聞かれるとすぐ、 あなたに答えてくださる。 イザヤ書 30:19 節

2024 年イスラエルの 平和を祈る祈り



- ◆イスラエルの人々が、霊の目が開かれて、イエス・キリストをメシアと信じ始めますように!!
- ◆ 2024 年を、主に委ねます。この戦争全体をイスラエルの勝利のうちに早く終わらせて下さい。
- ◆国民が受けた心の傷が癒され、皆で一致してこの国を 建て上げてゆくことが出来ますように。
- ◆ハマスの嘘のプロパガンダと、それにならって、イスラエルを悪とする世界の情報戦に、神の知恵で勝利させて下さい。
- ◆国連事務総長はじめ、国連の機構全体が、親パレスチナ的に偏向しています。公正と正義を保ってくれます
- ◆日本では、TVや、ネットで、ハマス支持が拡大しています。国全体が反ユダヤ主義にならないようにお守り下さい。

LCJE日本支部 2023年12月度会計

収入·献金		支出·現金	
科 目	金 額	科 目 金 額	į
献金	130,875	事 務 費 10,000)
大阪祈り会席上献金	10,000	NEWSレター製作費 65,274	ļ
		郵 送 費 ()
		郵 便 振 替 手 数 料 3,500)
		通 信 費 3,000)
		賃 借・管 理 費 22,000)
		高 熱 費・共 益 費 12,900)
		交 通 旅 費 5,000)
		祈り会経費 3,000)
合 計	140,875	合 計 124,674	ļ
		差 引 残 高 16,20	
前月よりの繰越	403,640	次 月 繰 越 金 419,84	

事務局よりのお知らせ

LCJE 日本支部では、皆様からの御投稿をお待ちしています。インターネットでの御投稿、原稿用紙での御投稿いずれも大歓迎いたします。

文字数は 2000 文字前後、投稿記事は郵送か、 LCJEJAPAN@HOTMAIL.COM 又は

FAX 072-867-6721 まで。宜しくお願い致します。

編集後記

コ・ワーカーの皆様、LCJE 日本支部を覚え篤くお祈りくださり感謝いたします。今月号も興味深い素晴らしい内容の記事が翻訳され読むことが出来ます。昨年の恵みの集会記事も主よりの励ましを頂けます。ユーチューブにも公開されていますので是非ご覧ください。激動の時代ではありますが、2024年もユダヤ人の救いを覚えてお祈りいたしましょう。心注いでイスラエルの平和を執り成しお祈りいたしましょう。コ・ワーカーお一人お一人に主の豊かな祝福がありますように。 シャローム

LCJE日本支部事務局長 高瀬真理

LCJE日本支部は、皆様の尊い献金で支えられています。感謝